

地震災害対策に資する資機材等の開発・活用検証テーマ	
背景・意義等	<p>消防庁では、令和 6 年能登半島地震により、石川県輪島市において発生した大規模火災における原因調査の結果等を踏まえ、消防活動等の検証を行い、今後取り組むべき火災予防、消防活動、消防体制等の充実強化のあり方について検討するため「輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会」を、国土交通省と共同で開催した。</p> <p>この検討会において、津波警報発令下における浸水想定区域内での消防活動が課題として取り上げられた。</p> <p>こうした状況を踏まえ、地震や津波発生時の大規模な火災現場など、消防隊員の進入が困難な区域で消防隊員の安全を確保した上で消火活動を継続するため、消火活動の無人化、省力化を推進することのできる資機材等の開発・活用検証が必要である。</p>
最終的な完成品のイメージ	<p>&lt;研究開発の例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害後の狭隘な道を通行できる小型の車両や、携行しやすい軽量化された資機材の開発</li> <li>・ 消火用ドローンや、無人走行放水ロボットを活用した消火戦術の研究</li> </ul>
備考	<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会報告書  <a href="https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/items/post-149/03/houkokusyo.pdf">https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/items/post-149/03/houkokusyo.pdf</a></p>